

金沢表具

歴史と特色

表装ともいわれる表具は、仏教の伝来とともに中国より伝わり、経巻の表装や礼拝用仏画像の掛軸として始められたものが原型とされている。金沢表具の由来は明らかでないが、仏教の普及や茶道の興隆などと深くかかわり合いながら発展し、藩政時代には御用表具師がいた記録もあり、当時から京表具、江戸表具と並び全国に知られていた。現在は、金沢市を中心に古い掛軸等の文化財の修復にもたずさわる等、高度な技術を誇っている。

作風は、京表具の流れをくみ、百万石文化を反映してどっしりとした渋い仕上がりが多く、寸法は金沢の町家に合せ、京寸法より短かめである。

材料の製地は京都西陣、和紙は美濃紙、大和紙等を使用し、消費者から注文を受け生産している。

歴史と特色

表具は與佛教一同從中國傳入，起先是用於經卷的表裝和禮拜用佛畫像的掛軸。隨著佛教的普及以及茶道的興起，金澤表具與其關係密切得以一同發展。與京表具和江戸表具相提並列廣為人知。現在多用於文化遺產的修復，同時也可訂做生產。

情報 資訊

主な生産地(主要産地)	金沢市(金澤市)
主な製品名(主要産品名)	掛軸、屏風、和本(掛軸、屏風、線装書)
主な生産者(主要生産者)	金沢美術表装協同組合(金澤美術装飾協同組合) 〒920-0981 金沢市片町1丁目3-13(金澤市片町1丁目3-13) TEL (076)260-6800 石川県表具内装協同組合(石川県表具内装協同組合) 〒920-0064 金沢市南新保町132-1(金澤市南新保町132-1) TEL (076)237-5899

歴史と特色

和傘は中国から伝えられた天蓋式絹傘と平安時代に長柄をつけて貴人にさしかけた菅笠から変化したものである。江戸時代に入って紙・竹細工の進歩と都市生活の増大に伴って都市部を中心に発達し、江戸中期頃には現在の開閉自在な傘が作られるようになった。

明治・大正時代の最盛期には、金沢に118軒の傘屋があり、金沢傘の名で県内外に売られていた。しかし、昭和30年頃以降、洋傘が普及し、和傘の製造は激減した。

原料は、かつて金沢周辺に群生していた孟宗竹と五箇山の楮を使い、傘の中心部に和紙を4重に張るとともに周辺部に糸を2〜3重に張り、破損しやすい部分を補強するなど、他の和傘に比べて丈夫であることが特徴である。なお金沢和傘の製造は紙の乾燥に適した温度、湿度の3月に集中している。

歴史と特色

和傘誕生於江戸時代，在明治、大正年間最為興旺，當時金澤就有118家傘店。原料是使用當地的孟宗竹和葡蟠，中心部分貼上四層和紙，周邊部分再貼上兩三層絲線加強作用。和傘的製造是在溫度和濕度比較適宜紙加工的3月進行。

情報 資訊

主な生産地(主要産地)	金沢市(金澤市)
主な製品名(主要産品名)	番傘、蛇の目傘、紅葉傘(番傘、蛇目傘、紅葉傘)
主な生産者(主要生産者)	松田傘・ちようちん店(松田傘、提燈店) 〒921-8023 金沢市千日町7-4(金澤市千日町7-4) TEL (076)241-2853

金沢和傘

金沢和傘